



Bーぐる沿線協議会ニュース

第12号

平成27年3月発行 Bーぐる沿線協議会事務局 区民課庶務係（コミュニティ担当） 03-5803-1387

平成26年11月28日に沿線協議会が開催され、平成26年度上半期のBーぐるの利用実績と企画会議の活動が報告されました。

公募委員を拡充して新体制がスタート！

任期満了のため平成26年11月1日に委員の改選が行われ、今回が初めての開催となりました。

皆さん初顔合わせでしたが、うち解けた雰囲気の中で自己紹介があり、初めて公募委員で参加した委員からは「ボランティアガイドになりBーぐるで区内を紹介したい」、「ホテル勤務の経験を生かし、利用者目線でBーぐるを見ていきたい」といった抱負が述べられました。会長には岩手県立大学総合政策学部の元田教授が再任し、観光協会の小森谷委員が副会長に指名され、第3期の沿線協議会が無事発足しました。

最初に事務局からBーぐるの運行概要の説明があり、日立自動車交通㈱の西窪委員からは平成26年度上半期の運行実績について、「乗車人数が千駄木・駒込ルートで約2%、目白台・小日向ルートで約8%増加した。他区のコミュニティバスでも夏場の乗車人数が増加しているようで、今年は8月と9月の暑さが例年ほどではなかったことも原因ではないか」との報告がありました。

今年12月で運行開始から3年が経過する目白

コミュニティバス1日当たり乗車人数(4月～9月)

	千駄木・駒込ルート	目白台・小日向ルート
平成25年度	1,392人 (348人)	1,060人 (265人)
平成26年度	1,420人 (355人)	1,150人 (287人)
増減率 (26年度/25年度)	2.0%	8.5%

※（ ）内数字は、1日1台当たりの乗車人数

台・小日向ルートについても「一日一台当たり300人の基準」到達にも期待が持てる状況となっています。

各委員からは、区からの補助金や乗車人数の算出方法に関する質問や「時差回数券やバス得ポイントなどの情報が意外に利用者に知られていない」、「バスに乗らないとわからない情報もある」といった意見のほか、運営に関するものでは「台東区と比べて車内広告が少ない。広告収入が増えれば補助金の額は少なくなる」、「企業からの協賛だけでなく、個人協賛を考えてはどうか」といった意見が出されました。



公募委員の皆さん

企画会議の活動がBーぐるのPRにも一役

続いて饗場委員から、千駄木・駒込ルートで放送中の地域情報番組（Bーぐるチャンネル）の制作状況とイベント実施について、報告がありました。

今年度のBーぐるチャンネルは、文京区高齢者クラブ連合会（4地区）と連携して制作していて、昨年もお世話になった跡見学園女子大学マネジメント学部芝原ゼミの学生さんが、高齢者サークルの練習に飛び入り参加したり、区内のわがまちを一緒に歩いて昔の話を聞いたり、世代を超えた交流がお互いにとても新鮮だったそうです。

また、今回初めて取り組んだ「夏休み！親子Bーぐる洗車ツアー」には、抽選で選ばれた16家族40名が参加しました。饗場委員は、「当日は夏の好天にも恵まれ、子供たちが笑顔ではしゃぎ回る姿を見て、自分たちまで楽しい気分になった。参加者全員のBーぐるに対する思いが伝わってきた。全面的に協力していただいた日立自動車交通㈱に感謝している。」と締めくくりました。

最後に石嶋区民課長が、「現在千駄木・駒込ルートで使用している車両が手狭になり、またベビーカーや車いすで利用しにくい状況であることなどから車両を更新する必要性を感じている。また、時刻表についても一部改正を検討している。多くの委員から様々な意見が出され、いつも以上に活発な意見交換が行われ感謝している。」と来年度以降のBーぐるの運行などに関して述べ、閉会となりました。



今年は、文京区高齢者クラブ連合会との全面協力を得て撮影が進められ、区内各地区で様々な交流が生まれました。



夏休み！親子Bーぐる洗車ツアー（平成26年8月24日開催）

編集後記

今回新たに公募委員になった方は、皆さんBーぐるに対する熱い気持ちがあり、初回からいろいろな意見やアイデアがポンポンと出されました。企画会議のメンバーで、この中から一つでも形にして活動の幅を広げていけたらなと思いました。（N）